

日本音楽集団

第11回 定期演奏会

昭和45年4月22日（水）

午後7時開演

朝日生命ホール

THE ENSEMBLE NIPPONIA

The 11th Regular Concert

April 22nd 1970

7:00 p.m.

at ASAHISEIMEI HALL

— 曲目と出演者 —

1. 三本の尺八のためのソネット / 三木 稔

〔尺八〕古賀将之・宮田耕八朗・横山勝也

2. 日本民俗詩より「恋の歌」 / 長沢勝俊

い. くちづけはあまい夏梨の唄

ろ. きりしゃんと巻きつきたいの唄

は. 千里の夜道も遠くないの唄

に. 殿御にもろうたものの唄

ほ. 月は東にすばるは西にの唄

〔バリトン〕中村義春（客演）〔メゾソプラノ〕菊池洋子（客演）

〔打楽器〕佐藤英彦（客演）・清水義矩・鞍掛昭二

3. 民謡群想 / 若松正司（委嘱作品・初演）

第Ⅰ章 佐渡おけさ

第Ⅱ章 木曾節, 諏訪太鼓

〔箏〕白根きぬ子・坂井とし子〔十七絃〕宮本幸子

〔三絃〕杉浦弘和〔琵琶〕山田美喜子〔篠笛〕望月太八

〔尺八〕横山勝也・宮田耕八朗・古賀将之

〔打楽器〕佐藤英彦（客演）・清水義矩〔指揮〕田村拓男

————— (休 憩) —————

4. しがらみ 第2 / 八村義夫（委嘱作品・初演）

〔三絃中棹〕杉浦弘和〔三絃太棹〕坂井とし子〔能管〕望月太八

〔尺八〕宮田耕八朗・古賀将之・横山勝也

〔指揮〕八村義夫

5. 日本の楽器による<コントラスト> / 堀 悦子

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

〔箏〕白根きぬ子・沢井忠夫（客演）〔十七絃〕宮本幸子〔三絃中棹〕杉浦弘和

〔三絃太棹〕坂井とし子〔琵琶〕山田美喜子〔能管・篠笛〕望月太八

〔尺八〕宮田耕八朗・古賀将之・横山勝也

〔打楽器〕佐藤英彦（客演）・清水義矩〔指揮〕田村拓男

— PROGRAMME & PLAYERS —

1. SONNET FOR THREE SHAKUHACHIS / MIKI, Minoru

by KOGA MIYATA YOKOYAMA

2. SONG OF LOVE / NAGASAWA, Katsutoshi

—Five Songs—

by NAKAMURA (Barit.) KIKUCHI (M. Sop.) MOCHIZUKI (Sb.)

SATŌ (Perc.) SHIMIZU (Perc.) KURAKAKE (Perc.)

3. FANTASY OF JAPANESE FOLKSONGS / WAKAMATSU, Masashi

1st Movement SADO-OKESA

2nd Movement KISOBUSHI, SUWA-DAIKO

by SHIRANE (Kt.) SAKAI (Kt.) MIYAMOTO (17Kt.)

SUGIURA (Sg.) YAMADA (Bw.) MOCHIZUKI (Sb.)

YOKOYAMA (Sh.) MIYATA (Sh.) KOGA (Sh.)

SATŌ (Perc.) SHIMIZU (Perc.) TAMURA (Cond.)

————— (Intermission) —————

4. SHIGARAMI NO. 2 / HACHIMURA, Yoshio

by SUGIURA (Sg.) SAKAI (Sg.) MOCHIZUKI (Nk.)

MIYATA (Sh.) KOGA (Sh.) YOKOYAMA (Sh.)

HACHIMURA (Cond.)

5. <CONTRAST> BY JAPANESE INSTRUMENTS / HORI, Etsuko

—Two Movements—

by SHIRANE (Kt.) SAWAI (Kt.) MIYAMOTO (17Kt.)

SUGIURA (Sg.) SAKAI (Sg.) YAMADA (Bw.) MOCHIZUKI (Nk., Sb.)

MIYATA (Sh.) KOGA (Sh.) YOKOYAMA (Sh.)

SATŌ (Perc.) SHIMIZU (Perc.) TAMURA (Cond.)

Sh. = Shakuhachi Sb. = Shinobue Kt. = Koto 17Kt. = Jūshichigen

Sg. = Sengen Bw. = Biwa Nk. = Nōkan

Bold type = guest player

ソネット

ソネットとは14行詩、小詩。ここでは小さな歌というほどの意味で用いました。単純で情緒的な旋律の断片で構成されていますが、それぞれの旋律は各奏者の自由な「こぶし（小節）」で装飾してもいいことにしています。私にとっては最初に日本の楽器のために書いた曲（1962）で、本来は前後に速いテンポの楽章を持つソナタの第2楽章だったのですが、第1、第3楽章は習作として作品表からはずしてしまいました。

デモーニッシュな「本曲」にはまだ接することのなかった時期の懐かしい小品なのです。（演奏時間約5分半） 三木 稔

恋の歌

一昨年の秋、NHKの委嘱によって作曲し、集団の第8回定期にも上演しました。曲は、女声および男声の曲がそれぞれ2曲、それに女声と男声の2重唱が1曲、計5曲よりなる恋の歌です。伴奏には、篠笛と、10種類の打楽器がつかわれています。

日本民謡のなかにある恋の歌は、その殆んどが労働歌として歌われてきたものであり、恋愛を一つの遊戯として扱ったものは、あまりみあたりません。ここに歌われていることばは、表現としては、すでに古い部分も沢山あります。しかしそのなかには、現代にも充分通じる恋のよろこびや悲しみなどの、真実きらりと光るすばらしい表現があって、私を感動させてくれます。

新しい日本の歌をつくるには、いろいろな方法があるでしょう。私は私なりに、この素朴な真実を素材とし、篠笛と打楽器という単純な楽器の伴奏により、現代にも通じる恋の歌を書いてみたかったのです。 長沢勝俊

(男) 十七見初めるにや
あおの高嶺の石のかげ
石に口なし 見初めたな

見初めたな
あまり愛ごさに口暖れや
飴か甘草か 夏梨か

夏梨か
秋が山のこかの実か
一夜づくりの 甘酒か

(女) 君さまは 高いところの姫小松
わたしや谷間のつたかずら
きりきりしゃんとね
きりしゃんと巻きついて
はなしがしてみたい

(男) 思てかよえば
千里も一里よ
逢わずもどれば また千里よ

こなた思えば
野も瀬も山も
やぶも林も 知らで来た

(女) 様に貰ろうた
根付のかがみ
見れば恋増す 思い増す

いとし殿御に 貰ろうたものは
親にはかくしたし
見ても 見ても 見たしの
見ても見たいは 殿御のみやげ

十七が しのびの殿御に帯もろて
晴れてはしられの しのみ帯
帯はもろうたが しのみ帯で

(男・女) 月は東に
すばるは西に
いとし殿御は まんなかに

民謡群想

私たち日本人は、洋楽を知り、同時に全く異質の邦楽の美しさもわかるという、世界でも類を見ない特殊な民族と思われまゝす。

そこでこの両者の結合——洋楽の説得力をもつ構造と、邦楽の微妙な音の陰影、間のとり方や、何よりも捨てがたい邦楽の音色を、同時に同一作品で表わす——を達成するのは、日本の作曲家の使命とも考えられますが、それにはどうしてもこの両方の演奏能力をもった演奏家が必要なわけです。

この、まれにみる資格を充分にもつばかりか、若いけれどもすでに芸術的には高い域に達した方々が集まってできた日本音楽集団は、作曲家の意欲をふるい立たせ、すでに今までも多くの優れた作品を新しく引き出して、それらを優れた演奏で紹介してきました。

多くの人と同様に、私も集団の存在をこのように現代日本音楽にとって貴重であり、たいへん意義の高いものと考え、尊敬していたところ、今度ほかならぬ私がこの集団のために作品を書くという機会を得て、嬉しくてなりません。同時に大いに光栄に思い、身をひきしめて作品を書きました。

若松正司

しがらみ第2

この曲は、日本音楽集団の委嘱により、今年の3月から4月にかけて作曲しました。日本楽器による私のはじめての作品です。日本楽器の持っているエキスプレッシヴな本性と、私自身の表出との、接点を見出すべく努めました。

八村義夫

日本の楽器による〈コントラスト〉

「このたび、私が、伝統的な日本の楽器によって、この作品をかいたのは、日本の伝統的な楽器がもっている、独特な音の個性に対する憧憬と、そこから生まれるであろう音楽の伝統性を、超えてみたい。と、念願したにほかならない。

I 楽章においては、静的なもの、II 楽章では、動的なものを意図した。そしてその中で、多様な表現を試みた。

また、“静中動” および、“動中静” ということも、当然ではあるが、意識計量した。」

(初演のプログラムにおける作曲者のことばから)

多数で音楽することの楽しみを味わいつつも、より良きものを生み出すことの難しさを痛感する日々ですが、多くの方々の暖かい御支援のもとに、発足以来11回の定期公演を重ねることができました。

一年一年歳をとり、経験を積むことは事実としても、こうした積み重ねが一体何になるかはまだ未知のことのようです。進歩と停迷は入り混り、賛否両論、暗中摸索を続けつつも、より大きな一つのものを生み出すために、一人一人がともかくも寄り添って来ました。

日本の楽器で合奏をすると云う事は、今日、日本人といえども、すでに時代劇の中においてすら洋楽が鳴り響いても奇異を感じなくなっていますし、日常生活にしても和洋混淆、国際的様相を呈しているのですから、どのように音楽するかはとともむつかしくなりました。技術的には、独奏や少人数の合奏では味わえない、音のより複数化、リズムの多様化、ダイナミックレンジの拡大と云うような事が考えられますが、それらをどのような目的のために凝縮したら良いのでしょうか。本当にやり度いこと。切実に考えたこと。それが皆の不確定多数の要求と一致した時、本当の意味で皆から愛されて育てられるのだと思います。

日本人・国際的・自然・生きる・死ぬ・竹・私・

横山勝也

お知らせ

- ◎このたびの演奏会には、初め「日本民謡による組曲」（東北のうたより）——長沢勝俊作曲——を初演する予定でしたが、作曲者の健康上の都合により、取り止めと致しました。あらためて御わび申し上げます。
- ◎野坂恵子は、近く出産予定のため、今回は休演いたします。
- ◎日本音楽集団では、本年度より常任指揮者制度をやめることに致しました。
- ◎団外の作曲家への委嘱をさらに増やして、今後毎回2曲ずつ委嘱を行なう予定です。
- ◎第12回定期演奏会は、10月19日（月）、都市センターホールにて行います。曲目は「くるだんど」（三木稔作曲）その他で、委嘱作品は、田中利光氏と、もう1曲を予定しています。
- ◎長沢勝俊作曲「子供のための組曲」が、日本音楽集団の演奏によりこのたび日本ビクターから、4チャンネル・ステレオのテープとして発売されました。
- ◎今秋日本コロムビアから日本音楽集団の演奏による三木稔作品がまとめて発売される予定ですが、すでに「四群のための形象」「天如」「序の曲」などの録音が終わりました。

日本音楽集団

(箏・三絃)	坂井とし子	(尺八)	古賀将之
(箏)	白根きぬ子	(打楽器)	田村拓男
(箏・三絃)	野坂恵子	(打楽器)	清水義矩
(箏・十七絃)	宮本幸子	(作曲)	長沢勝俊
(琵琶)	山田美喜子	(作曲)	三木稔
(三絃)	杉浦弘和	(作曲)	元橋康男
(篠笛・能管)	望月太八	(コンサート)	鞍掛昭二
(尺八)	横山勝也	(ディレクター)	
(尺八)	宮田耕八朗	ゲストメンバー (竜笛)	芝祐靖

■ プログラム編集・製作 = 鞍掛昭二 / 印刷 = 北星印刷

■ 日本音楽集団 150 東京都 渋谷区 神宮前3-6-14

TEL (402) 0709

